

決算説明会

2023年12月期（第16期）

2024年2月 東証 グロース：4579

ご注意：本資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料内の免責事項を必ずご参照ください。



- ◆ 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- ◆ それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品（研究開発プログラムおよび化合物）に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制当局からの承認取得、国内外の医療保険制度改革、医療費抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制、新製品開発に付随する課題等が含まれますが、これらに限定されるものではありません。



1. ビジネスハイライト（2023年12月期）
2. 企業価値・株主価値の向上に向けて
3. 研究開発パイプライン
4. 中期経営計画2024-2026ハイライト
5. 資金の状況と配分
6. 今後のイベント想定

① ビジネスハイライト

2023年12月期



連結経営成績

事業収益1,901百万円（期初計画比32.1%減）で2020年12月期以来の赤字

- 事業費用：2,238百万円（期初計画比11.8%減）
- 営業利益：△337百万円

上市品の状況

テゴプラザンのグローバル展開は順調に拡大

- 韓国、中国、フィリピン、モンゴル、メキシコ、インドネシア、シンガポール、ペルーの8カ国で販売中
 - ・ 韓国：前年に引き続き売上伸長（院外処方データ：1,582億ウォン（約174億円/1韓国ウォン=0.11円））
 - ・ 中国：2023年3月に国家基本医療保険の償還対象となったが、販売の出遅れがあり期初想定を下回った

ペット用医薬品のロイヤルティ収益は順調に推移

- GALLIPRANT®/ENTYCE®/ELURA®：前期に引き続き順調な売上推移
- ELURA®について欧州医薬品庁より承認（適応症：慢性疾患に伴う猫の食欲不振症・体重管理）

導出

動物薬に関するオプションおよびライセンス契約を新たに締結

- 5-HT₄作動薬（RQ-00000010）に関する契約をVetbiolix SASと締結

パイプライン 進捗 (研究開発)

ライセンス先/サブライセンス先での進展

- CB2作動薬：サブライセンス先のOxford Cannabinoid Technologies Holdings plc が英国で第 I 相臨床試験を開始
- TRPM8遮断薬：サブライセンス先のXgene Pharmaceutical Co. Ltd.が前臨床試験を完了
- テゴプラザン：サブライセンス先のBraintree Laboratories, Inc.が米国における第 III 相臨床試験を実施中

自社の研究開発の進展

- 「モダリティ」「創薬標的」「疾患領域」「基盤技術」の4つの切り口で創薬バリューチェーンの強化に取り組み中
- グレリン受容体作動薬：前臨床試験および臨床試験用原薬製造を実施

子会社 (テムリック)

タミバロテン

- 骨髄異形成症候群（MDS）および急性骨髄性白血病（AML）の臨床試験がライセンス先により米国で進行中
- 臨床開発の実施に伴う手数料をライセンス先のSyros Pharmaceuticals Inc.より受領



2023年12月期 通期連結業績概要

単位：百万円

	2023年12月期 業績予想 (2023年2月14日) 【A】	2023年12月期 業績予想(修正) (2023年12月8日) 【B】	2023年12月期 通期実績 【C】	増減 【C-A】	主な増減理由
事業収益	2,799	1,938	1,901	△ 898	<ul style="list-style-type: none"> 契約一時金及びマイルストーン翌期に期ずれ △900百万円 販売ロイヤルティ テゴプラザン（中国）の販売出遅れ △261百万円 テゴプラザン（韓国）の伸び率減少 その他 臨床開発に係る手数料収入ほか 263百万円
事業費用	2,538	2,347	2,238	△ 300	<ul style="list-style-type: none"> 委託試験等の一部期ずれに伴う減少 △121百万円 採用計画の見直しに伴う人件費減少 △65百万円 リースの活用に伴う減価償却費減少 △30百万円 その他 株式報酬費用の減少ほか △84百万円
営業利益	260	△409	△337	△ 597	<ul style="list-style-type: none"> 事業収益の減少 △898百万円 事業費用の減少 300百万円
経常利益	242	△340	△293	△535	<ul style="list-style-type: none"> 営業利益の減少 △597百万円 為替差益 52百万円 支払利息等 △15百万円 その他 配当金ほか 25百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	183	△426	△323	△506	<ul style="list-style-type: none"> 経常利益の減少 △535百万円 外国法人税等の増加 △35百万円 税効果による影響額 64百万円
EBITDA ¹⁾	464	△233	△161	△625	<ul style="list-style-type: none"> 営業利益の減少 △597百万円 減価償却費の減少 △29百万円

1) EBITDA: 利払・税引・減価償却前利益



2021年6月発表の事業目標は「部分的に達成」に留まった

中期経営計画 2021年12月期～2023年12月期

(2021年6月30日発表)

		2021年	2022年	2023年	総括
収益	<ul style="list-style-type: none"> 2021年12月期から2023年12月期の3期の黒字化 	○	○	×	△
研究	<ul style="list-style-type: none"> 2023年12月期までに開発候補化合物2個を創出 	△ 1個創出	×	×	△
開発	<ul style="list-style-type: none"> 2023年12月期までにグレリン受容体作動薬の前臨床試験終了 2023年12月期までに導出準備プログラムの中から1つ次段階の治験申請 	→		×	×
導出	<ul style="list-style-type: none"> 導出準備プログラムおよび新規開発候補化合物から年1件の契約締結 	○ 2件締結	×	○ 1件締結	△

・2024年に期ずれ
・テゴプラザンは
導出へ方針転換

○ 達成 △ 部分的に達成 → 継続 × 未達



取り組み継続中だが未達となる項目も出ている

中期経営計画 2023年12月期～2025年12月期

(2023年2月14日発表)

		2023年	概況
収益	<ul style="list-style-type: none"> 2025年12月期までの3期黒字 2025年12月期までの3期累計の事業収益99億円 	×	➡ 2024年以降の黒字化を目指す
研究	<ul style="list-style-type: none"> 2024年12月期までに開発候補化合物1個を創出 	➡ 0個創出	↗ 2026年までに 開発候補化合物 2 個を創出
開発	<ul style="list-style-type: none"> グレリン受容体作動薬の自社開発 <ul style="list-style-type: none"> 前臨床試験終了 (2023年12月期) 臨床試験開始 (2024年12月期) 	×	↗ 2025年の 臨床試験開始へ後ろ倒し
導出	<ul style="list-style-type: none"> 導出準備プログラムから毎年1件導出 	○ 1件締結	➡ テゴプラザン日本導出は 2024年にずれ込み

達成
 継続
 未達
 方針転換



RaQualia
innovators for life

2 企業価値・株主価値の向上に向けて



1

創薬バリューチェーンの強化

- 新規モダリティへの挑戦
- 注力疾患領域の拡大

成長性の向上 (PER)

2

開発パイプラインの拡充

- 新たな開発候補品の創出
- 臨床開発による価値向上

成長性の向上 (PER)

3

事業収益規模の拡大

- プラットフォーム事業の実施
- 大型契約が狙える分野への進出

成長性の向上 (PER)

収益性の向上 (ROE)

創薬バリューチェーンの強化と開発パイプラインの拡充で成長性を向上
 プラットフォーム事業への進出によりロイヤルティ収入に次ぐ収益源を確保

② 企業価値・株主価値の向上に向けて 成長戦略

M&Aによる成長性・収益性の向上



成長性・収益性の向上へ



RaQualia
innovators for life



FIMECS

低分子創薬

TPD技術



低分子創薬



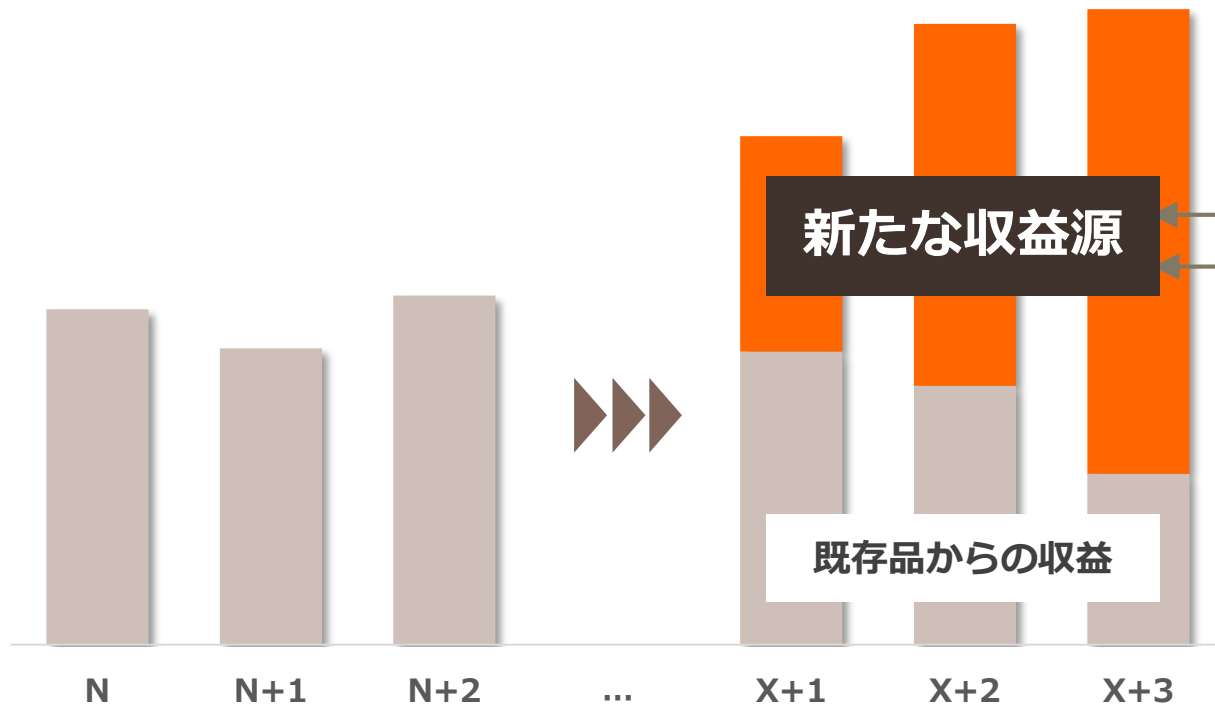
TPD技術

- 1 プラットフォーム技術の獲得による創薬バリューチェーンの強化
- 2 ビジネスモデルのハイブリッド化による収益の増加
- 3 がん領域の強化と拡充



テゴプラザンとペット用医薬品に続く **新たな収益源を生み出す必要がある**

事業収益の将来推移のイメージ



技術・パイプラインの拡充

- 創薬バリューチェーンの強化
- 自社開発による価値向上

ビジネスモデルの強化

- **プラットフォーム型事業への進出**
研究段階から製薬会社と提携
 - ✓ 契約一時金
 - ✓ マイルストーン
 - ✓ ロイヤルティ

標的タンパク質分解誘導剤技術を保有する**ファイメクス株式会社**の買収

対象会社	ファイメクス株式会社
取得形態	発行済み株式及び新株予約権の取得による100%子会社化
取得価額	<ul style="list-style-type: none">株式譲渡実行時の取得価額：4,500 百万円<ul style="list-style-type: none">このほかアーンアウト対価として、2028年12月期までの5事業年度の間、同社事業収益に基づき予め定めた算定方法により求めた金額を売主に分配アドバイザー費用等（概算額）：17百万円
日程	<ul style="list-style-type: none">株式譲渡契約締結日： 2024年2月14日株式譲渡実行日： 2024年3月26日（予定）
連結決算	<ul style="list-style-type: none">2024年12月期第2四半期（2024年4月1日）から当社の連結業績に反映予定子会社化による当社連結業績への影響は本日開示の2023年12月期決算短信に記載の当期連結業績予想に織り込み済み

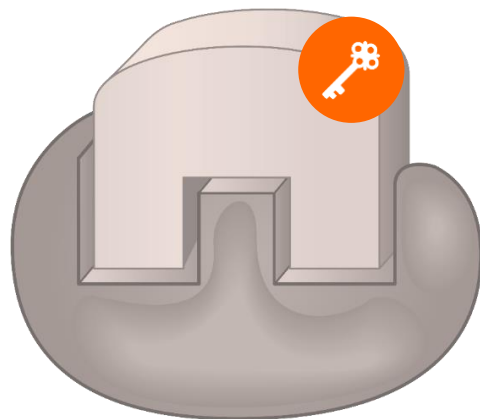


標的タンパク質分解誘導剤 (TPD) とは



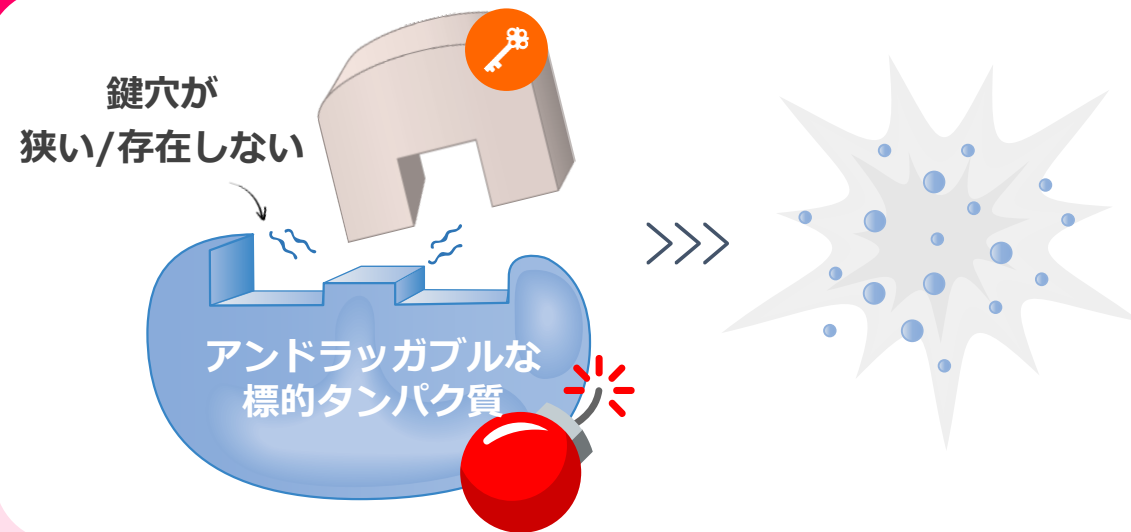
TPDは既存の低分子薬では機能を制御できない**アンドラッグブルな標的タンパク質を直接分解除去**することで効果を発揮

既存の低分子薬



機能のみを阻害 (鍵と鍵穴)

TPD



分解し除去 (分解の目印を付与)



独自のTPD関連プラットフォームを有する企業は安定して高額の契約を獲得



	Arvinas (NASDAQ: ARVN)	C4 Therapeutics (NASDAQ: CCCC)	Kymera Therapeutics (NASDAQ: KYMR)	Nurix Therapeutics (NASDAQ: NRIX)	ファイメクス (未上場)
時価総額 2024年1月25日時点	\$2,078M	\$280M	\$1,890M	\$393M	—
プラットフォーム	PROTAC®	C4T TORPEDO™	Pegasus™	DELigase™	RaPPIDS™
主な契約	<ul style="list-style-type: none"> ● Genentech (2015) \$11M+\$34.5M+>\$650M ● Merck (2015) \$7M+>\$434M ● Pfizer (2018) \$28M+>\$830M ● Bayer (2019) >\$110M+\$685M ● Pfizer (2021) \$1B+\$1.4B; ARV-471** 	<ul style="list-style-type: none"> ● Roche (2016) \$15M+\$40M+>\$900M ● Calico (2019) \$5M+\$132M ● Biogen (2019) \$45M+\$415M ● Merck (2023) \$10M+\$2.5B 	<ul style="list-style-type: none"> ● GSK (2018) 非開示 ● Vertex (2019) \$70M+>\$1B ● Sanofi (2019) \$150M+>\$2B ● KT-474***+α 	<ul style="list-style-type: none"> ● Celgene (2015) \$150M+\$405M ● Gilead (2019) \$45M+>\$2.3B ● Sanofi (2019) \$55M+>\$2.5B ● Seagen (2023) \$60M+\$3.4B 	<ul style="list-style-type: none"> ● アステラス製薬 (2022) 5億円+非開示
契約相手先 (契約年) 契約一時金 + 総額*					
<ul style="list-style-type: none"> ● 共同研究等 ● 導出 					

* マイルストーン達成、標的拡張オプションを含み、販売ロイヤリティを含まない契約全体の潜在的な総額；

** 局所進行性または転移性のER陽性/HER2陰性乳がんを対象とする臨床試験第二相段階のアセット

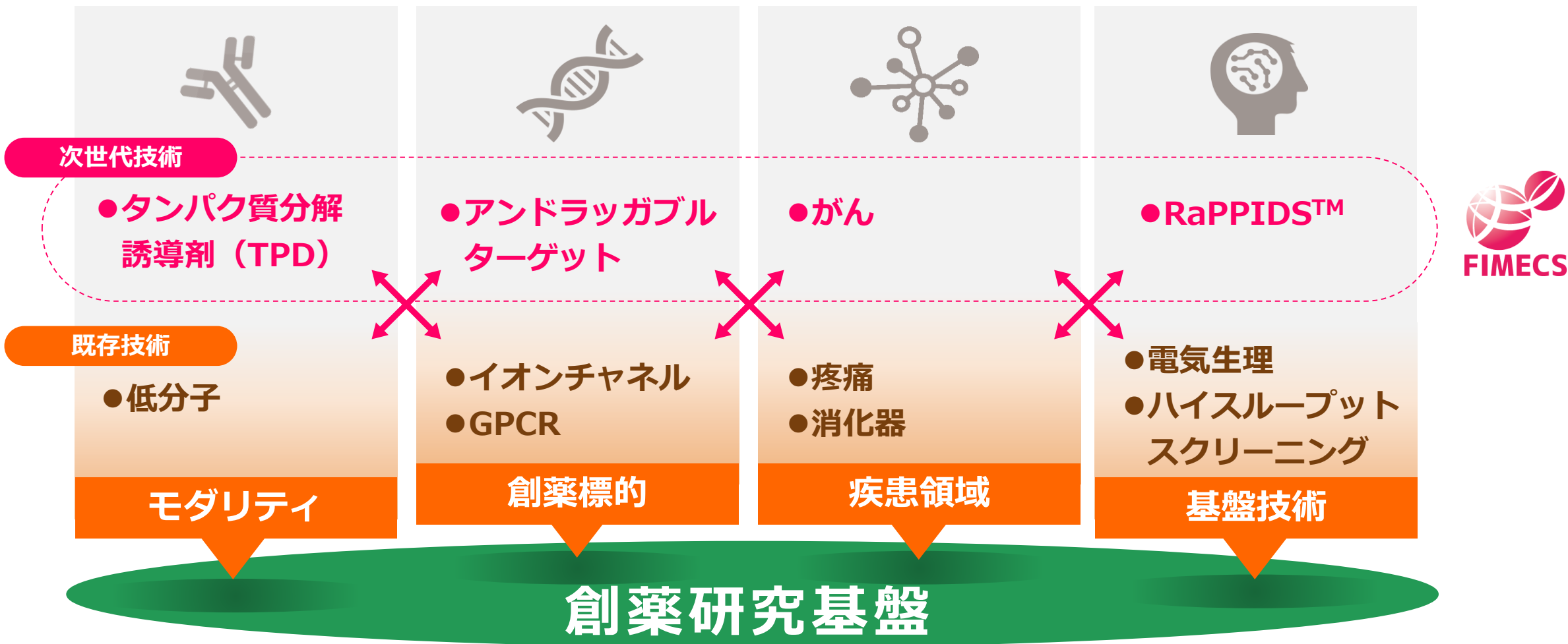
*** アトピー性皮膚炎、汗腺炎、膿疱、リウマチ、関節炎、その他炎症疾患を対象とする臨床試験第一相試験開始前のアセット



RaQualia
innovators for life

1 自社創薬バリューチェーンの強化により成長可能性を拡大

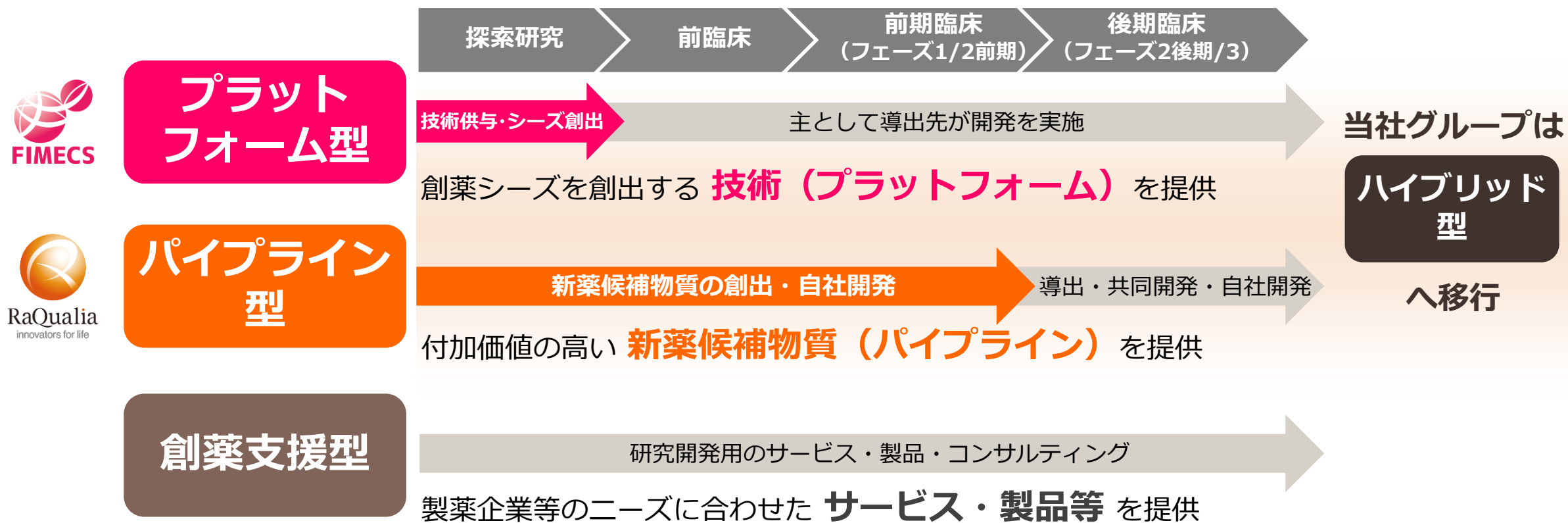
既存の低分子創薬技術と次世代技術の軸を超えたシナジー効果の実現へ





② ビジネスモデルのハイブリッド化

ファイメクスの子会社化により当社グループはプラットフォーム型とパイプライン型を両立した**ハイブリッド型のビジネスモデル**に移行

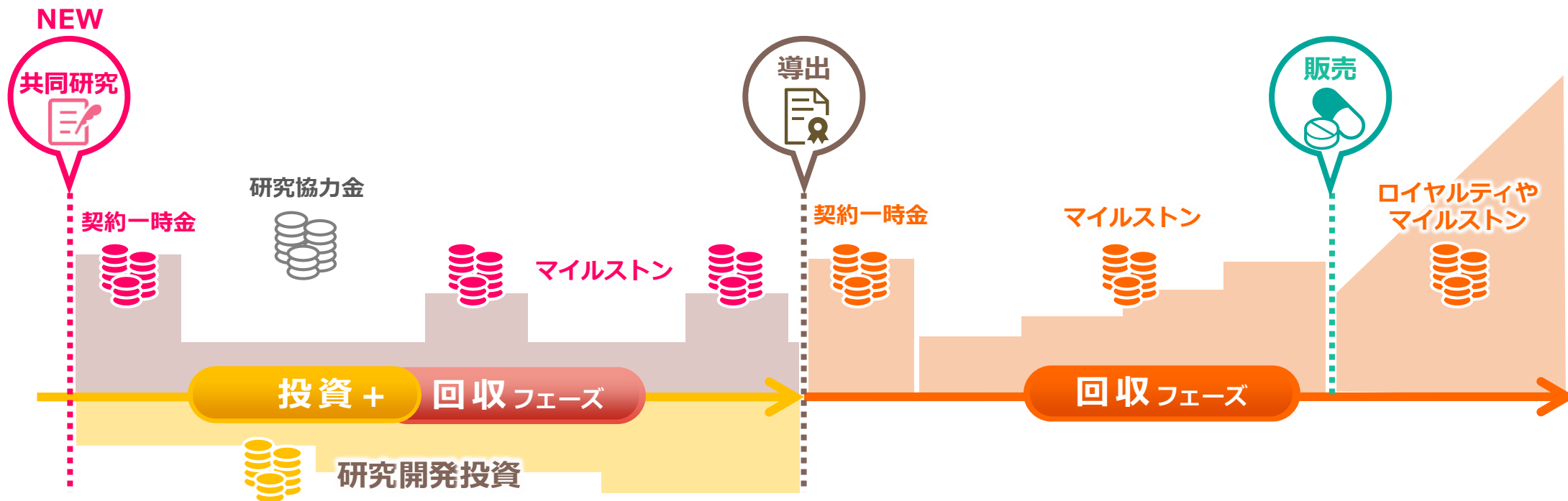




② ハイブリッド化による収益構造のアップデート

導出後の収益に研究段階における契約一時金・マイルストーンが加わり**収益が増加**

ハイブリッド型のビジネスモデル



契約一時金

製薬会社等とのライセンス
契約締結時に得られる収入

研究協力金

契約相手先から研究を請け負っ
た際に得られる収入

マイルストーン

開発の進展、あるいは製品発売後に一定
の売上高に達した際に得られる収入

ロイヤルティ

製品発売後、売上高の一定
割合を得られる収入



RaQualia
innovators for life

3 当社グループのがん領域における取組み

がん治療分野における買収とパートナーシップから 新規モダリティによりアンドラッグブルを切り拓く



VIS：株式会社Veritas In Silico（東証グロース 証券コード130A（2024年2月8日新規上場））



本取引は**当事業年度から事業収益を大幅に向上**させると見込む

<p>取得価額</p>	<ul style="list-style-type: none"> 株式取得時の支払い額：4,500 百万円 アドバイザー費用等（概算額）：17百万円 アーンアウト対価として、2028年12月期までの5事業年度の間、同社事業収益に基づき予め定めた算定方法により求めた金額を売主に分配
<p>取得資金</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自己資金と銀行借入により調達 銀行借入は、みずほ銀行を中心とするシンジケートローンを申し込み予定
<p>取得予定日</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2024年3月26日（クロージング日）
<p>2024年12月期への影響</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2024年12月期第1四半期（2024年1月1日～2024年3月31日）に連結貸借対照表に取り込み 2024年12月期第2四半期（2024年4月1日～2024年6月30日）より連結損益計算書に取り込み 本日（2024年2月14日）開示の連結業績予想数値には、ファイメクスの業績を織り込み済み
<p>連結決算に対する財務インパクト</p>	<ul style="list-style-type: none"> のれん計上額は、2024年3月31日を基準日として算出予定（日本基準） アーンアウト対価の追加支払い分については、支払い時にのれんとして追加計上予定（日本基準） のれんの償却期間は概ね15年程度の見込み
<p>本取引の中長期インパクト（予想）</p>	<p>3カ年の事業収益目標 （2024年12月期～2026年12月期）</p> <p style="font-size: 2em; text-align: center;">44億円</p> <ul style="list-style-type: none"> 左記の事業収益目標は、ファイメクス単体の契約一時金、マイルストーン収入、委受託等の収益目標の合算値 株式取得資金の回収は2027年12月期以降を予想 主な上振れ要因 <ul style="list-style-type: none"> 既契約のマイルストーンに想定より早期に到達した場合 新規の共同研究契約が想定より早期に締結/大型化した場合

M&Aによるシナジー



経営資源

- パイプラインの獲得
- 優秀人材の獲得
- 新たな企業文化や
イノベーションエンジン



成長可能性の拡大

- 創薬バリューチェーンの強化
- 新たなモダリティの獲得
- がん領域へのさらなる進出



収益性の拡大

- 収益機会の増加
- プラットフォーム型ビジネス
への拡充

② 企業価値・株主価値の向上に向けて 成長戦略

オープンイノベーションによる探索研究の強化



AIの活用で当社化合物の難病・希少疾患への新たな適応を探索

ソシウム株式会社：独自の難病・希少疾患データベースとAI創薬プラットフォーム



当社化合物（イオンチャネル標的）の眼疾患への適応を探索

株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所：眼科領域の創薬ノウハウ



イオンチャネルの3次元立体構造に基づく低分子創薬

leadXpro AG：クライオ電子顕微鏡などを用いた膜タンパクの構造解析技術



新規モダリティの細胞内抗体による革新的創薬

STAND Therapeutics株式会社：独自技術（STAND技術）で細胞内から標的分子にアプローチ



mRNA標的の低分子化合物から新たな抗がん剤を創出

株式会社Veritas In Silico：mRNA上で標的部分構造を見出すインフォマティクス技術



RaQualia
innovators for life

株式会社Veritas In Silicoとの共同研究

決算説明会

2023年12月期

創薬標的の拡張に向けた取り組み

mRNAを標的とした 低分子医薬品の創出を目指す



14Si Veritas In Silico

代表取締役社長：中村慎吾

2016年11月創業（2024年2月東証グロース市場へ上場）

<https://www.veritasinsilico.com>

共同研究概要

疾患領域：がん

創薬標的：複数（詳細非開示）

進捗

2022年12月 共同研究開始

2023年12月 マイルストーン達成

保有技術

mRNA標的 low molecular weight 創薬のプラットフォーム「ibVIS®」

- mRNA上で標的部分構造を見出すインフォマティクス技術
- 標的mRNA構造に対する定量的な化合物探索を実現するスクリーニングプラットフォーム

出所：株式会社Veritas In Silico
Copyright © 2024 Veritas In Silico, Inc.



mRNAはタンパク質よりも低分子医薬品の標的が豊富

低分子創薬とは、創薬標的上に「鍵穴」を探索し、「鍵穴」にピッタリとはまる「鍵」(低分子医薬品)を見つける一連のプロセス

タンパク質標的的低分子創薬とmRNA標的的低分子創薬は、標的がタンパク質とmRNAで全く異なるが、低分子医薬品を見つける一連のプロセスは共通

タンパク質標的創薬

ターゲット探索

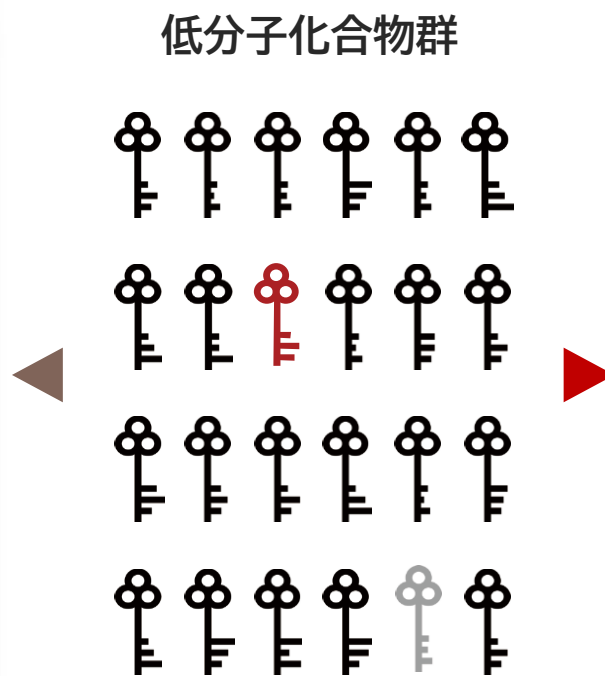


❗ **課題:**一部のタンパク質にしか「鍵穴」が存在しない(創薬標的の枯渇)

スクリーニング (注1)



ヒット化合物 (鍵候補) (注2)



14Si mRNA標的創薬

ターゲット探索



VISの技術:コンピュータでmRNAの部分構造を計算、多くのmRNAに「鍵穴」を発見できる

スクリーニング

ヒット化合物 (鍵候補)



VISの技術:「鍵穴」に対する定量的スクリーニング法を構築できる

(注1) 様々な化合物の中から一定の基準を満たす化合物を選択するためのプロセス(鍵穴に対して鍵候補を見つけるプロセス)

(注2) スクリーニングで一定の基準を満たした化合物(鍵候補)

③ 研究開発パイプライン

導出済み

開発段階非開示

(2024年1月31日現在)

特定のイオンチャネル
消化器領域
EAファーマ社

選択的ナトリウムチャネル遮断薬
鎮痛・鎮痒
マルホ社

EP4拮抗薬
変形性関節症ほか
AskAt社

TRPM8遮断薬
疼痛
Xgene Pharmaceutical社

ナトリウムチャネル遮断薬
疼痛
久光製薬社

COX2阻害薬
疼痛（動物薬）
AskAt社

5-HT4作動薬
消化管運動障害（動物薬）
Vetbiolix社

CB2作動薬
化学療法誘発性末梢神経障害ほか
AskAt社/OCT社

EP4拮抗薬
がん（がん免疫）
AskAt社

5-HT₄部分作動薬
アルツハイマー病
AskAt社

EP4拮抗薬
疼痛
AskAt社

COX2阻害薬
疼痛
AskAt社

タミバロテン
急性骨髄性白血病
Syros Pharmaceuticals社

P2X7受容体拮抗薬
疼痛
旭化成ファーマ社/リリー社

タミバロテン
骨髄異形成症候群
Syros Pharmaceuticals社

テゴプラザン (K-CAB®)
胃食道逆流症ほか
HKイノエン社

EP4拮抗薬 (GALLIPRANT®)
イヌの骨関節炎
エランコ社

グレリン受容体作動薬 (ENTYCE®)
イヌの食欲不振
エランコ社

グレリン受容体作動薬 (ELURA®)
ネコの慢性腎臓病に伴う体重減少管理ほか
エランコ社

前臨床

フェーズ1
(第I相/P1)

フェーズ2
(第II相/P2)

フェーズ3
(第III相/P3)

販売中

導出準備

モチリン受容体作動薬
胃不全麻痺ほか

グレリン受容体作動薬
脊髄損傷に伴う便秘、
悪液質に伴う食欲不振

TRPM8遮断薬 (日本)
慢性疼痛

テゴプラザン (日本)
胃食道逆流症ほか

5-HT₄作動薬
胃不全麻痺ほか

5-HT_{2B}拮抗薬
下痢型IBS

注1) 前臨床段階以降にあるプログラムについて標的疾患ごとにわけて表示しています。
注2) 国・地域によって開発段階に差がある場合は、最も進んだ段階を表示しています。

詳細につきましては当社ウェブサイト (<https://www.raqualia.com/ja/index.html>) の「開発情報」にてご確認ください。



テゴプラザン tegoprazan

作用機序 カリウムイオン競合型アシッドブロッカー (P-CAB) として胃酸の分泌を抑制

想定適応症 胃食道逆流症 (GERD)、消化性潰瘍 (ほか)

ステージ フェーズ1終了; 韓国・中国など8カ国で販売中

権利状況 日本: 当社, 日本を除く全世界: HKイノエン社

導出方針 日本国内での早期上市を目指し、2023年度より導出先候補企業と交渉中



日本国内の市場規模



日本国内におけるGERD罹患者成人の

10~20%



約**2,500**億円

国内競合上市品



エソメプラゾール (PPI)

ボノプラザン (P-CAB) ほか

※出所: 患者さんご家族のための胃食道逆流症 (GERD) ガイド2023 (日本消化器病学会)



日本国内での早期上市を目指して2023年度より導出先候補企業と交渉開始、
提携先候補との協議中

↳ **2024年12月期上半期中の契約締結を目指す**

協議のポイントおよび解決に向けた対応

- ① 開発の加速化・リスク低減 → 海外臨床情報の活用（提携先からのデータ等の入手） **進捗** ✓
- ② 原薬・製剤の供給 → 供給体制の検討（提携先との協力関係の強化） **進捗** ✓
- ③ 薬価引き下げ懸念 → ライセンス対価・供給コスト等の諸条件の議論 **継続** ➡



グレリン受容体作動薬 RQ-00433412

計画

想定適応症	脊髄損傷に伴う便秘、悪液質に伴う食欲不振
ステージ	前臨床試験実施中
導出方針	第 I 相臨床試験（P1試験）終了後の導出で大型契約を狙う

2025年 臨床試験開始

2026年以降の導出を目指す

下痢を引き起こさず **自律的な排便コントロールが可能な経口薬**で生活の質の向上を目指す

米国の市場規模



米国における脊髄損傷者

30万人以上



そのうち便秘に伴う加療は

約**60%**

550~900億円/年



アンメットニーズ



- 脊髄損傷による自律神経の障害 → 排便障害
- 既存の便秘薬は**下痢**を引き起こしやすい



座薬や浣腸より
経口薬が好まれる



Syros Pharmaceuticals Inc.におけるタミバロテンの開発

骨髄異形成症候群 (MDS)



フェーズ 3 試験 "SELECT-MDS-1" 実施中

- 未治療高リスクMDSを対象としたアザシチジンとの併用
- 2024年1Qに一次解析対象患者190名の登録を完了予定
→ 2024年4Q半ばまでにCRのピボタルデータを発表予定

急性骨髄性白血病 (AML)



フェーズ 2 試験 "SELECT-AML-1" 実施中

- 未治療unfit¹⁾-AMLを対象としたベネトクラクス・アザシチジンとの併用
- 2023年12月6日 無作為化試験パートの結果発表
 - 奏効評価可能な患者9例においてCR²⁾・CRi²⁾ 100% という良好な結果
- 2024年に追加データを発表予定

その他の取り組み状況

膵がん 尿路上皮がん



膵がん・尿路上皮がんに対する臨床研究・医師主導治験³⁾進行中

- がん周辺の微小環境に作用することで、抗がん剤抵抗性の改善を期待

後継品プロジェクト：タミバロテン後継品の探索を実施中

1) unfit：高齢者などで標準化学療法に適さない患者さんの状態； 2) CR：完全奏効率； CRi：不完全血液学的回復を伴う完全奏効率； 3) 名古屋大学を代表機関とするAMED臨床研究・治験推進研究事業

事業計画および成長可能性に関する事項（2024年12月期～2026年12月期）

4

中期経営計画2024-2026 ハイライト

2024年2月14日公表



M&A

- 標的タンパク質分解誘導剤（TPD）の卓越した技術を有する**ファイメクス株式会社**（以下「ファイメクス」）を買収し、プラットフォーム事業を獲得

収益

- 2024年から2026年の3カ年の**事業収益144億円**を見込む（前回発表比45%増）
- ロイヤルティの順調な増加に加え、新たな導出契約やファイメクスの**プラットフォーム事業からの一時金収入**を見込む

導出

- 導出準備プログラムから**毎年1件以上のライセンス契約**を予定
- テゴプラザン（日本）については**2024年上半期中**の契約締結を目指す
- ファイメクスのプラットフォーム事業から**毎年1件以上の共同研究契約**を予定

研究開発

- オープンイノベーションを軸に**創薬バリューチェーンの強化**を加速
- 2026年までに**2個の開発候補品の創出**を予定（新規モダリティを含む）
- グレリン受容体作動薬の**臨床試験実施を計画**（2025年）



事業の進捗状況とファイメクスの子会社化を踏まえて**事業目標を更新**

収益

2024年12月期～2026年12月期の3期連続黒字
2026年12月期までの3期累計の事業収益144億円

研究

2026年12月期までに開発候補化合物2個を創出（うち1個は新規モダリティ）
ファイメクスとの協働体制の確立（2024年12月期）

開発

グレリン受容体作動薬の臨床試験開始（2025年12月期）
新たな開発プログラムの前臨床試験開始

契約

導出準備プログラムから毎年1件のライセンス契約（テゴプラザン（日本）を含む）
ファイメクスのプラットフォーム事業において毎年1件の共同研究契約

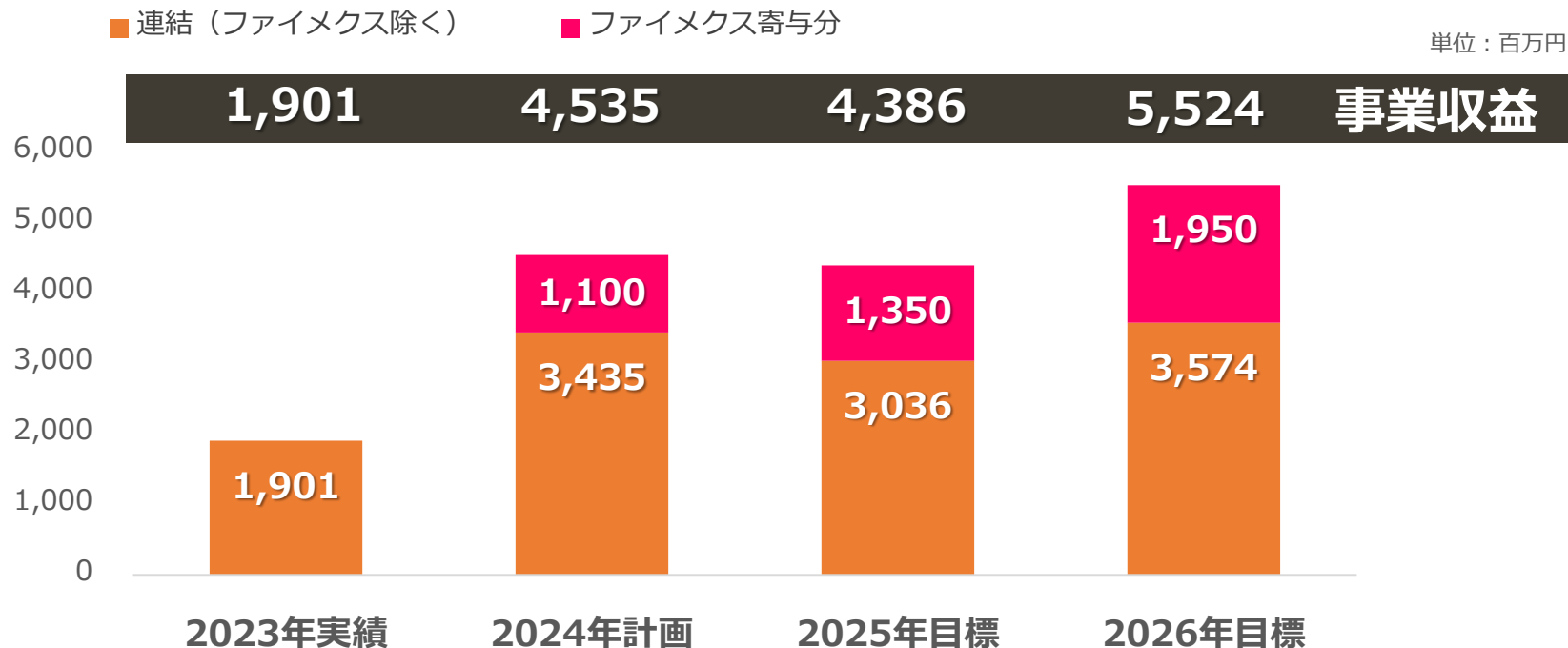


連結業績予想および今後の目標

- 安定したロイヤルティ収入に加え、契約一時金とマイルストーン収入が増加
 - ファイメクスの子会社化により事業収益が倍増
- 3年連続の黒字化を目指す

単位：百万円

	実績	計画	目標	
	2023年 12月期	2024年 12月期	2025年 12月期	2026年 12月期
事業収益	1,901	4,535	4,386	5,524
事業費用	2,238	4,222	3,995	4,437
営業利益	△337	313	391	1,086
経常利益	△293	290	371	1,072
親会社株主に帰属する 当期純利益	△323	236	295	834
EBITDA	△161	454	532	1,228
為替 (米ドル/日本円)	138	135	125	120



2024年

テゴプラザンと動物薬の売上が伸長し、ロイヤルティ収入が増加すると想定。契約一時金（テゴプラザン日本を含む）およびマイルストーン収入等も見込む。ファイメクスが実施中/新たに獲得する共同研究による収益とあわせて、合計4,535百万円を見込む

2025年

テゴプラザンのグローバル売上はさらに伸長し、動物薬の売上も堅調に推移すると想定。契約一時金およびマイルストーン収入等も見込む。ファイメクスのプラットフォーム事業による収益とあわせて、合計4,386百万円を見込む

2026年

テゴプラザン・動物薬からのロイヤルティ収入は安定的に推移。グレリン受容体作動薬等の契約一時金およびマイルストーン収入等も見込む。ファイメクスのプラットフォーム事業による収益とあわせて、合計5,524百万円を見込む

今回の発表では、ロイヤルティ収入とその他収入（契約一時金・マイルストーン）の別を設けずまとめて表示しています。

5 資金の状況と配分



資金の状況

前回発表 (2023年2月14日)	今回発表 (2024年2月14日)
2023年～2025年の 事業収益見通し 99 億円	2024年～2026年の 事業収益見通し 144 億円
手元資金 (2022年期末) 49 億円	手元資金 (2023年期末) 49 億円
エクイティ調達 (確保済) 7.8 億円	
借入余力 (コミットメントライン) 10 億円	借入余力 (コミットメントライン) 17 億円
	銀行借入 (シンジケートローン) 35 億円
エクイティ調達 (新株予約権) 20 億円	エクイティ調達 (新株予約権) 20 億円

企業価値最大化に向けた投資

資金の配分

前回発表 (2023年2月14日)	今回発表 (2024年2月14日)
探索研究投資 ¹⁾ (既存領域の拡充) 43 億円 (3カ年)	探索研究投資 ¹⁾ (既存領域の拡充) 58 億円 (3カ年)
前臨床・臨床開発投資 ¹⁾ (プロジェクトの価値向上) 11 億円 (3カ年)	前臨床・臨床開発投資 ¹⁾ (プロジェクトの価値向上) 17 億円 (3カ年)
設備投資 (既存設備の拡充・ DX投資等)	拡大 設備投資 (既存設備の拡充・ DX投資等)
戦略投資 (創薬技術の獲得等 (M&Aを含む))	拡大 戦略投資 45+α 億円 (3カ年)

株主還元

株主配当金
財務基盤強化に
応じて実施予定

自己株式の取得
機動的に検討

1) 人件費を含みます。



株式時価総額向上のロードマップ

成長戦略により当社グループを大きく成長させ、**株主価値の向上を実現する**

(2023年12月末日時点の時価総額：148億7,681万円)

時価総額 **300**億円
(株価¹⁾ 1,387 円)

個人投資家

テゴプラザン：日本導出
グレリン：自社開発の進展
創薬研究基盤の強化

成長投資により
成長可能性を追求

- ✓ 新たな投資家の獲得
- ✓ 明確な成長ストーリー

時価総額 **500**億円
(株価¹⁾ 2,312 円)

国内機関投資家
中小型株ファンド

継続的な導出契約締結
ファイメクスが当社収益に寄与
開発パイプラインの拡充

ベンチマーク指標MSCI²⁾への採用
を目指す

- ✓ 機関投資家目線の情報発信
- ✓ IR体制の強化

時価総額 **1,000**億円
(株価¹⁾ 4,625 円)

海外機関投資家
大型株ファンド

収益性のさらなる拡大
・ロイヤルティの最大化
・契約の大型化

資本市場へのフルアクセスでさら
なる時価総額向上へ

- ✓ 長期安定株主の確保
- ✓ 海外機関投資家の獲得

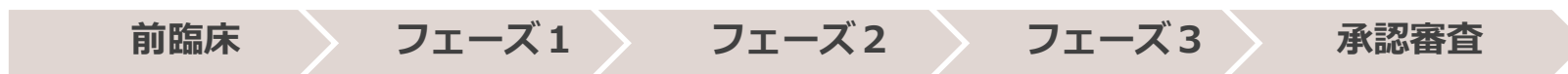
1) 2023年12月末日時点における発行株式数 (21,623,281株) に基づき算出

2) MSCI：MSCI (モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社) が公表する指数

⑥ 今後のイベント想定



想定される進捗イベント



ELURA

ネコの体重減少



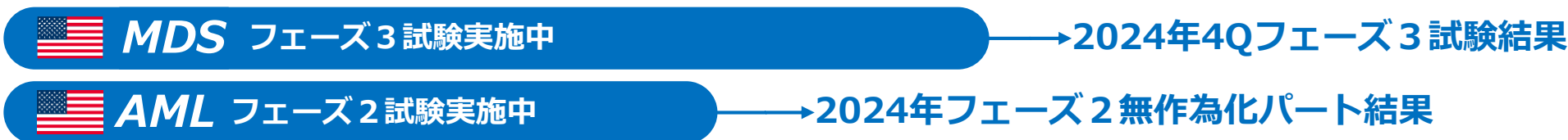
テゴプラザン

胃酸分泌抑制剤



タミバロテン

抗悪性腫瘍薬



P2X7

受容体拮抗薬

疼痛



CB2作動薬

CIPN/IBSに伴う疼痛



TRPM8遮断薬

慢性疼痛



グレリン

受容体作動薬

便秘、悪液質



※お問い合わせ件数などに基づき、投資家の皆様の注目度が高いと当社が判断したプログラムに限定してお示ししています。想定される進捗イベントの内容や時期は、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

イノベーションの力で、いのちに陽をもたらす



RaQualia
innovators for life

ラクオリア創薬株式会社